

(8) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鋳工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

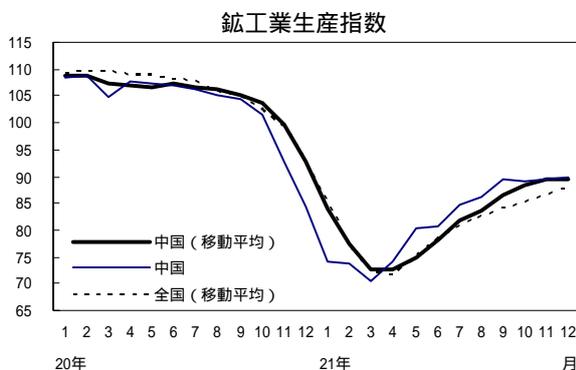
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年11月)	今回(平成22年2月)	
鋳工業生産	持ち直している	緩やかに持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は緩やかに持ち直している。

鉄鋼は、自動車や家電向けを中心に増加している。化学は、合成ゴム、ポリスチレン等を中心に増加している。輸送機械は、国内や欧州での経済対策の効果により小型自動車等の生産が引き続き好調だったものの、船舶用蒸気タービン等で前期からの反動がみられたことから、減少している。一般機械は、半導体製造装置の生産が回復しつつあるものの、一般用蒸気タービンやボイラ部品・付属品の生産が低調だったことから、減少している。電子部品・デバイスは、携帯電話向けのモス型半導体集積回路や薄型テレビ用のコンデンサを中心に上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
 2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

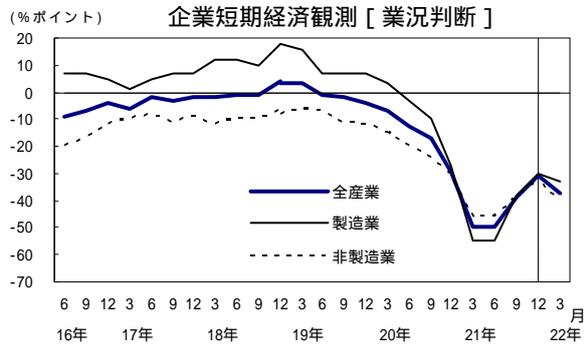
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
鉄鋼	16.5	28.5	9.2	4.7	8.1
化学	16.1	4.0	8.3	6.0	0.7
輸送機械	14.8	22.2	1.9	0.2	11.0
一般機械	10.7	4.1	1.1	0.8	7.2
電子部品・デバイス	7.3	14.4	9.9	10.4	-
鋳工業	100.0	10.7	3.3	2.8	1.0

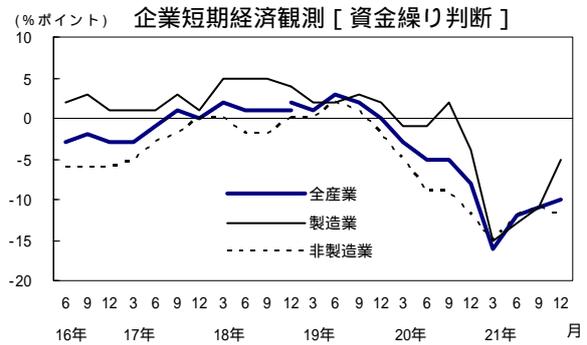
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
 2. 10~12月期は速報値。
 3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

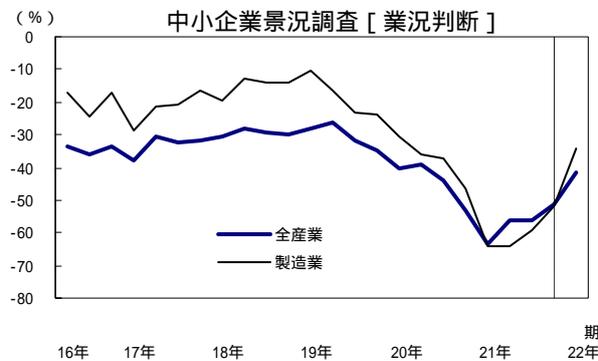
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年3月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

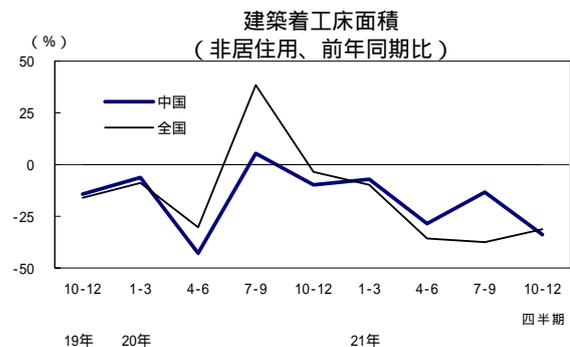
「取引先より設備投資検討に向けた引き合いがあるものの、大幅にコストが下がる提案以外は、決定するまでに時間がかかっている(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	4.8	22.5(0.0)
製造業	12.7	26.1(9.1)
非製造業	8.0	17.7(9.0)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

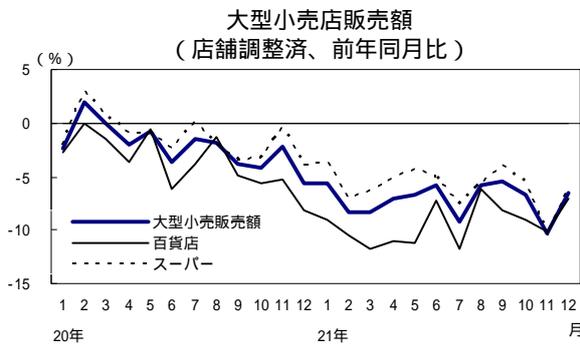
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、セーターやコートなどの衣料品や防寒用のストールやタイツなどが振るわなかったことなどから前年を下回った。11月は、紳士服の低価格品やセール品に動きがみられたものの、コートなどの婦人服や総菜などの食料品が低調だったことから前年比の減少幅が拡大した。12月は、中旬以降の気温低下により婦人用コートなどに動きがみられたほか、クリスマスギフトやショートブーツなどの身の回り品が好調だったことから前年比の減少幅が縮小した。中国四国百貨店協会によると、1月の中国地区の売上高は、前年同月比で6.3%減となっている。

スーパーは、保温機能のある肌着などに動きがみられたものの、商品単価の下落や節約志向が続くなか、衣料品、飲食料品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「雪の影響もあり、観光客全体の動きは良くないが、韓国など外国人観光客の動きが多少戻ってきている(テーマパーク)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

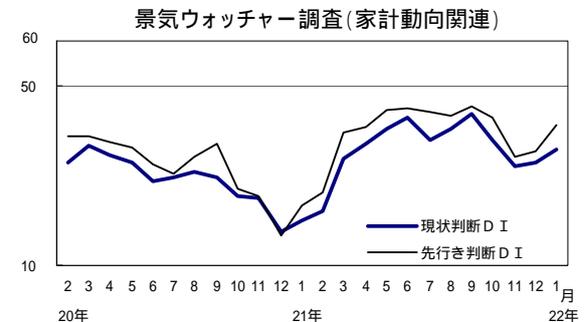
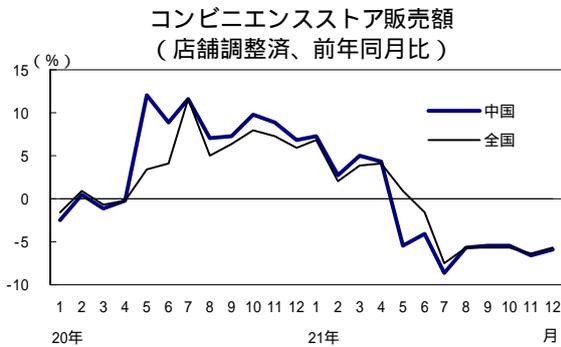


	(前年同期比、%)			
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	7.4	6.6	7.0	7.8
百貨店	10.4	9.9	9.1	8.5
スーパー	5.7	4.8	5.9	7.4
乗用車	20.2	13.0	4.0	18.2
景気ウォッチャー	25.3	40.2	40.7	34.4

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

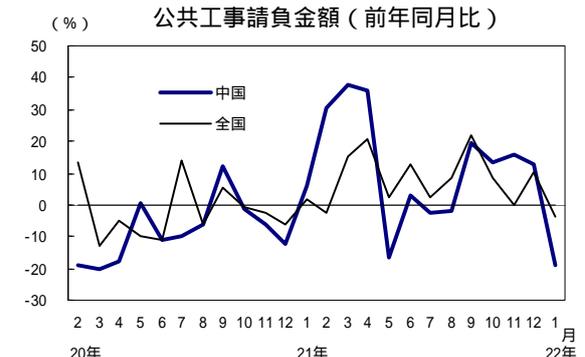
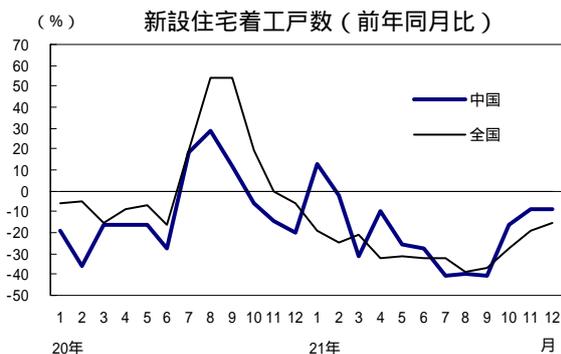
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

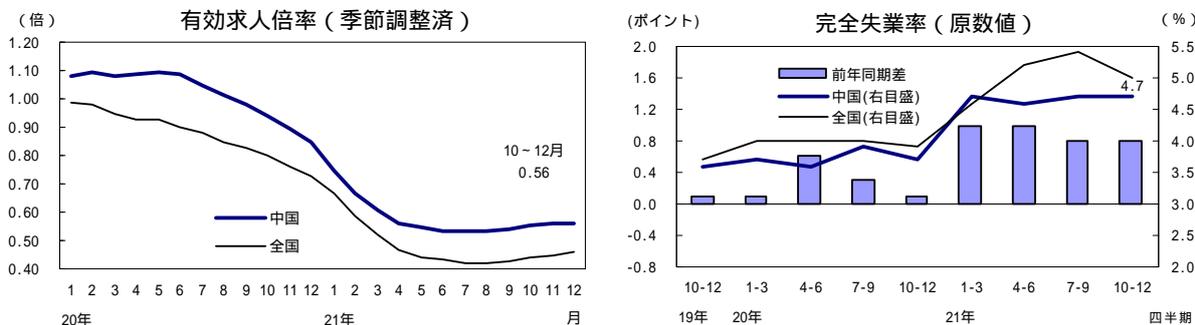


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

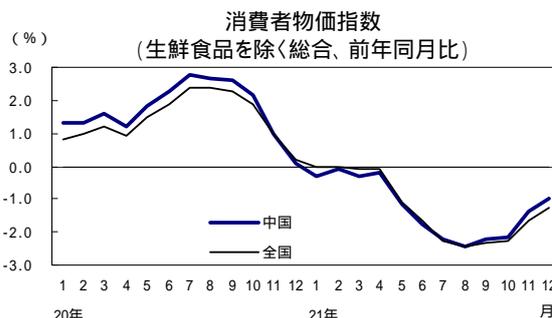
「新規求人申込がほとんどない状態であり、また求人に関する相談、問い合わせ自体もない。退職金制度の見直し・廃止などの相談を受ける (民間職業紹介機関)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22年1月
倒産件数	178	147	156	156	32
(前年比)	10.6	26.1	17.5	21.6	45.8
負債総額	951	744	325	466	100
(前年比)	81.5	12.3	90.1	8.1	78.5



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (1月)

- ・今冬は暖冬と予測されていたが、月初めから気温が低い日が続き、防寒衣料を中心とした冬物セール商品の動きが良く、前年に近い売上を維持している。ただし、必要だから買うといった買い方で、購買意欲が向上してきた雰囲気はない (百貨店)

<先行き> (1月)

- ・エアコン向け生産計画が5か月以上もフル生産が続く受注になっており、自動車関連も緩やかに受注量が回復してきている。人員補充に苦慮している (電気機械器具製造業)

